

復元画・復元模型をきっかけに歴史を読み解く

逗子開成中学・高等学校 片山 健介

1. 実施学年：中学生 教科・領域：社会科・歴史的分野

2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

①主題名：「復元画・復元模型をきっかけに歴史を読み解く」

②ねらい

博物館は、「様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察」する際に、極めて有意義な場所である。その際に、復元画や復元模型は、多くの生徒にとって、興味関心を抱く一つの対象であり、歴史に対する想像力をふくらませ、また、その時代の特徴やその時代の背景を理解するのに重要な意味をもつ。

しかし、生徒と地域の博物館を訪れる際、気づくことがある。それは、彼らが、無意識のうちに、「博物館における復元画や復元模型＝ただ一つの正解」と捉えていることである。本来、復元画や復元模型は、多くの研究者の方々による模型作成時点での研究成果の一つのはずである。その点をふまえた時、展示を変更しづらい小さな博物館などでは、そういった模型を読み解く能力が必要とされていることに気づく。

そこで、本取り組みでは、博物館における一つではない模型展示の見方（展示作成の背景）に気づかせ、博物館展示から歴史を考え、知ることの方法について学ぶことをねらいとした。

③博物館との関連

本報告の実践は、本校の土曜講座の中の一講座「そうだ！博物館へ行こう！！」の中で行った。中学1年生～高校2年生の希望者が対象である。すでに中学レベルの歴史を学んだ者と全く学んでいない者とが混在している。また、学年がまたがることから事前・事後の授業は実施していない。そのため歴博を訪れ、実際の展示にふれることに主眼をおいた。利用した中心展示は以下の二点（第一展示室）であるが、同展示室内の他の展示についても適宜利用した。

- ・三内丸山遺跡復元展示模型（大型建物など）
- ・鳥取県稲吉土器をもとにした「サギと舟の神話 稲の祭」復元画（安芸早穂子氏画）

3. 指導計画

過程	時間	学習活動○ 学習内容●	指導上の留意点
事前指導		○ 事前課題プリント配布、課題に取り組む（後掲資料Ⅰ・Ⅱ）	
当日指導	5分	● 博物館内でのマナー 単眼鏡配布＋使用方法	
展開① ガイダンス ルーム	20分	○ 参加者全員に事前課題 （後掲資料Ⅰ（「稲の祭り」に関して）のすべての答えをそれぞれ発言させる	どの生徒のどんな答えにもコメントを付し、その答えを否定しないことで、館内の展示やその説明について関心が持続するよう工夫。
		○ 参加者全員に事前課題 （後掲資料Ⅱ（「三内丸山の大型建物跡平面図」）のすべての答えをそれぞれ発言させる	同上。ただし、時代を問う問題（縄文）については、各発言を整理し、各時代ごとの建物の特徴がわかるように言及しておく。また、平面図から推測した想像図を書いてきた生徒の答えは全員に提示し、館内展示を見学した際の比較対象となるようにする。
展開② 第一展示室	20分	○ ①三内丸山遺跡について ● ・事前課題の復元模型とすりあわせる ・模型に関して「これは何？」と質問をくりかえし、発言させ、その答えによった説明を行う。 ○ ②鳥取県稲吉土器をヒントにした復元画 ● ・事前課題の答えの確認 →銅鐸・土器・高坏・生け贅 →Aの人物の位置づけ ・模型から「気づくこと」を発言させ、その答えによった説明を行う。	・事前課題と実際の復元模型の落差から縄文時代の大型建物について考えさせる ・前代・後代との建物の相違について気づかせる ・展示模型の建物の上部構造の作成の難しさについて気づかせる（同遺跡大型掘立柱建物の各見解について言及、火山灰に埋もれていた黒井峯遺跡の展示模型との相違についても言及） ・栗林、栽培、漆、土偶、黒曜石、犬、土器など →答えを発展させ、同室内の展示を利用説明 ・脇に展示された銅鐸の使い方を学ぶ ・高坏の説明の際に土器の分化について気づかせる ・人物A＝祭祀をとりおこなう中心人物の造形（服装や鳥装）と土器の線刻の関係について気づかせる ・祭と収穫の関係について気づかせる ・登場人物、高床式倉庫、樹木のあり方、呪術、男女の相違など →答えを発展させ、同室内の展示を利用説明
展開③ 自由見学	75分	○ 「歴博の先生方への質問状？」シート （後掲資料Ⅲ）を配布後、自由行動、シート完成	・各展示室を巡回し、声かけを行う
展開④	20分程度	○ 質問状シートを集め、その質問に沿って、全員で館内見学	
事後指導		後日、質問状シートの質問内容と答えをまとめたプリントを配布	

4. 実践の概要

第一回…2009年7月11日（土）

タイムスケジュール

- 10：00 現地集合
- 10：00～ 諸注意・単眼鏡配布など
- 10：15～ 研修室にて事前課題の確認
 - 各生徒の答えを確認し、問題の所在を明確にしておく
 - 第一展示室「復元画・復元模型について」
- 11：00～ 特別展「日本建築は特異なのか」を参加者全員で見学
 - 玉井哲雄教授によるギャラリートークへの参加
- 12：30～ 昼ご飯 + 自由見学（質問シートに記入）
- 14：30～ 質問シートの確認 → 書き上げた質問事項をもとに全員で各所見学
- 15：15 現地解散（自由見学）

第二回…2009年11月14日（土）

タイムスケジュール

- 10：00 現地集合
- 10：00～ 諸注意・単眼鏡配布など
- 10：15～ 研修室にて事前課題の確認
 - 各生徒の答えを確認し、問題の所在を明確にしておく
- 10：45～ 特別展「縄文はいつから！？」を参加者全員で見学
- 12：00～ バッグヤード見学
 - 情報資料研究系の齋藤努教授
 - ・赤外線による漆紙文書の調査
 - ・赤外線サーモグラフィカメラによる刀剣の精錬過程の調査
 - 博物館事業課職員
 - ・館蔵品の保管や搬入作業などについて
- 12：45～ 昼ご飯
- 13：30～ 研修室にて事前課題の確認
 - 各生徒の答えを確認し、問題の所在を明確にしておく
 - 第一展示室「復元画・復元模型について」
- 14：10～ 「歴博の先生方への質問状？」シート配布 + 自由見学
- 15：30～ 広場に集合 → 書き上げた質問事項をもとに全員で各所見学
- 16：00 現地解散（自由見学）

*なお、両日ともに特別展についての事前課題・当日課題を作成し取り組ませた。

第一回： 7月11日（土）参加：計10名（中1：6名、中2：3名、高1：1名）

第二回：11月14日（土）参加：計6名（中1：1名、中2：2名、中3：3名）

→第二回の参加予定者は21名でした。インフルエンザ猛威のため。

* 20名以内の実施が妥当だと思います。

【事前課題シートに対する生徒の主な解答】→学年差により解答の内容に相当の開きあり

* 〈問1（復元画）〉

- ①解答は銅鐸がほとんど。その説明として「銅鐸の前身（絵は豊作などを祝っているように見える。なので派手な音を鳴らしていた?）」「お祭りで使う楽器」「自分たちの権力のしるし」など
- ②「きのこ」「土偶（豊穰を願う）」「わら人形」「人形（一種の神様）」「神のつもり?」「人型の木の彫り物（御神体）」「神の像」「はにわのようなもの」「猿」など
- ③「土器」「縄文土器」「お酒の入ったビン」「弥生土器」「土器（神に捧げる水が入っている）」など
- ④「たかつき」「高坏」「米（稲の豊作を祝っている）」「お酒をいれる皿」など
- ⑤「鹿が死んでいる」「鹿の肉（食べるのか?）」「生けにえ」など

〈問2（復元画）〉：Aの人物について

- ・ 右と左で違う模様の羽みたいのをつけている。たぶん女性。この祭りごとの中心人物みたい。鳥のまねをしているのかもしれない。空を見ている気がする。
- ・ 顔に鳥のようなくちばしがついている。腕が月の形のように変になっている。
- ・ 鳥の装いをしており神の使いをモチーフにしているのだろう。相当偉い人。たぶん巫女さんだ。
- ・ 神への祈りを捧げる儀式において、神との交信をする役であると考えられる。鳥の姿をしているところをみると、あがめている神は人などではなく、自然的な神だと思われる。

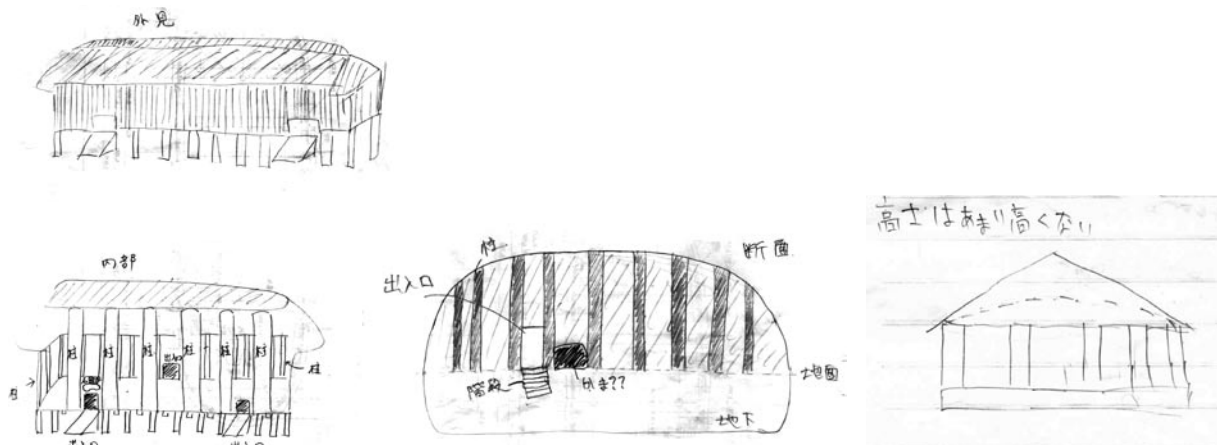
〈問3（三内丸山大型建物跡平面図）の時代について〉

- ・ 縄文時代、弥生時代、古墳時代など

* 参照：『高さを求めた昔の日本人—巨大建造物をさぐる—』（歴博フォーラム）

〈問4（三内丸山大型建物跡平面図）から上部構造を推定する〉

- ・ 文章の解答は省略。



5. 成果と課題

成果としては、当初のねらい通り、教科書や資料集にも掲載される復元画や復元模型に多様な見方があることを伝え、生徒なりに認識できた点である。当日、自由見学の際に書かせた生徒の質問シートを確認してみると、「『江戸図屏風』のこの部分にいるこの人物は何をしているのだろうか?」「土偶のポーズにはどんな意味があるのだろうか?」「四つ口」外交のもとでは、それぞれ何語を話していたのだろうか?」など、それぞれの関心に従って各展示の細部にこだわり、追求すれば今後生きる質問を記していたからである。

また、実践させていただいた二日間ともに、特別展「日本建築は特異なのか」「縄文はいつから!？」をそれぞれ見学し、ギャラリートークなどに参加させていただいた。また、バックヤード見学をさせていただき、生徒にとって最新の研究成果や研究方法を学ぶ良い機会となった。引率者であり、馴染みある私のような教員が生徒に話すよりも、研究の最前線にいる研究者の方々や博物館に勤める方々に話をさせていただいた方が、生徒にとっては説得力があるようだ。

一方で、課題としては、本校の土曜講座の仕組み上の問題でもあるが、学年が混在しており、取り組みの性質上、事前学習・事後学習に対応できないことなどがある。特に、質問シートであげてもらった質問群を追求する機会を設けることができない点は、大きな課題である。二回目に実施した際には、質問とそれに対する解説をまとめたプリントを作成し配布することで、一回限りの訪問で終わらないよう工夫した。これについては、今後、授業内で行ったり、総合学習の一貫として行ったりなどの対応は考えることができる。ただし、博物館利用が一回限りで終わるのではなく、訪れて学んだ内容を事後学習によって、どのように引き出し、効果をあげるかは、他のプログラムと共通した課題であると考えられる。

6. わたしの考える歴博活用案

本来、歴博の利用は、体系的な知識をえて、それを深めるため、何度も繰り返し足を運ぶことが理想の利用方法だと考える。生徒自身が興味を持ったことを確認するために、何度も通い、調べ、研究者の方々に質問をし、歴史的事象に対する興味関心を深める。最終的には目指したいかたちである。そう考える根底には、基本的に、博物館は現物の展示を自身の目で見学してこそ意味のある場所だと考えていることに由来する。

しかしながら、本校から佐倉の歴博まで片道約2時間半かかる。残念ながら生徒が、「何度も通う」ことはできない。そのような背景から、上記の理想には主眼をおかなかつた。何に主眼をおいたかという点、歴博という空間において、彼等が授業で学習する教科書の記述一つ一つをじっくり考えるための「きっかけ」の場にするという点のみである。教科書や資料集に記される歴史的事象には、実に多くの研究成果があった上で、「教科書」の「記述」として結実している。限られた授業時間数のなかでは、その点やその背景をなかなか伝えられないことが多い。

復元画や復元模型の一つをとりあげる時、それを作成した研究者や他の研究者、膨大な先学の試行錯誤がそこにこめられているとあって良い。それを自身の目を見て、じっくり考えることは大変楽しい作業である。

歴博の展示は、通史ではなく、その時代ごとの「重要テーマ」の素材が大変充実している。今回の取り組みは、そういった展示を利用して「歴史を考える」という行為そのものを、博物館という生徒にとっては非日常的な場で行って欲しかったのである。

まだまだ、私自身不勉強な部分が多い、今後も模索しながら歴博を利用させていただきたいと考えている。

最後に、1回目（7月）の実践を行った際の課題をふまえ、練り直した指導計画を掲げておきたい。変更点は主に4点である。また、参考資料として掲げた「事前課題シート」に対する生徒の解答についても、当日の簡単な実践報告として末尾に掲げておくので、参考にしていただければ幸いである。

【変更点】（*変更点はすべて下線を引いた）

- ①自由見学の際に行った質問状シートをいかすために事後指導を加えた。
- ②展開①の縄文時代の建物の特徴を話す際に、歴史未学習の生徒には、三内丸山の大型建物の特異性がなかなか伝わらない印象をうけたので、各時代の建物の大きさなどの特徴を整理して伝えることにした。
- ③展開②の展示模型の上部構造の作成の過程を説明する際に、軽石層の下から検出された黒井峯遺跡（同室内）との対比を行うことで理解の助けとなるようにした。
- ④展開②の稲吉土器の復元画の説明の際に、こちらはあまり想定していなかった質問として、「樹木のあり方」や「男女の相違」などについての言及があった。両点を追加した。

過程	時間	学習活動○ 学習内容●	指導上の留意点
事前指導		○ 事前課題プリント配布、課題に取り組む（後掲資料Ⅰ・Ⅱ）	

当日指導	5分	● 博物館内でのマナー 単眼鏡配布＋使用方法	
展開① ガイダンス ルーム	20分	○ 参加者全員に事前課題 （後掲資料Ⅰ（「稲の祭り」に関して）のすべての答えをそれぞれ発言させる	どの生徒のどんな答えにもコメントを付し、その答えを否定しないことで、館内の展示やその説明について関心が持続するよう工夫。
		○ 参加者全員に事前課題 （後掲資料Ⅱ（「三内丸山の大型建物跡平面図」）のすべての答えをそれぞれ発言させる	同上。ただし、時代を問う問題（縄文）については、各発言を整理し、各時代ごとの建物の特徴がわかるように言及しておく。また、平面図から推測した想像図を書いてきた生徒の答えは全員に提示し、館内展示を見学した際の比較対象となるようにする。
展開② 第一展示室	20分	○ ①三内丸山遺跡について ● ・事前課題の復元模型とすりあわせる ・模型に関して「これは何？」と質問をくりかえし、発言させ、その答えによった説明を行う。 ○ ②鳥取県稲吉土器をヒントにした復元画 ● ・事前課題の答えの確認 →銅鐸・土器・高坏・生け贅 →Aの人物の位置づけ ・模型から「気づくこと」を発言させ、その答えによった説明を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題と実際の復元模型の落差から縄文時代の大型建物について考えさせる ・各時代の建物の相違について気づかせる ・展示模型の建物の上部構造の作成の難しさについて気づかせる（同遺跡大型掘立柱建物の各見解について言及、火山灰に埋もれていた黒井峯遺跡の展示模型との相違についても言及） ・栗林、栽培、漆、土偶、黒曜石、犬、土器など →答えを発展させ、同室内の展示を利用説明 ・脇に展示された銅鐸の使い方を学ぶ ・高坏の説明の際に土器の分化について気づかせる ・人物A＝祭祀をとりおこなう中心人物の造形（服装や鳥装）と土器の線刻の関係について気づかせる ・祭と収穫の関係について気づかせる ・登場人物、高床式倉庫、樹木のあり方、呪術、男女の相違など →答えを発展させ、同室内の展示を利用説明
展開③ 自由見学	75分	○ 「歴博の先生方への質問状？」シート（後掲資料Ⅲ）を配布後、自由行動、シート完成	・各展示室を巡回し、声かけを行う
展開④	20分程度	○ 質問状シートを集め、その質問に沿って、全員で館内見学	

事後指導		後日、質問状シートの質問内容と答えをまとめたプリントを配布	
------	--	-------------------------------	--

資料（I）事前課題シート

*当日までに取り組んでおいてください。

資料「安芸早穂子氏が描いた復元画」を参考に以下にコメントを書いておいてください。

なお、この復元画は、鳥取県稲吉土器の絵をもとに描かれたものです。

(何を調べても構いません)



問1 図中の①～⑤は何でしょう？また、何のために、そこにあるのでしょうか？思いつくことを書いてみましょう。

問2 Aの人物について、気づくことをすべて書いてみてください。
(どんな些細なことでも構いません)

「弥生時代の祭場」安芸早穂子画

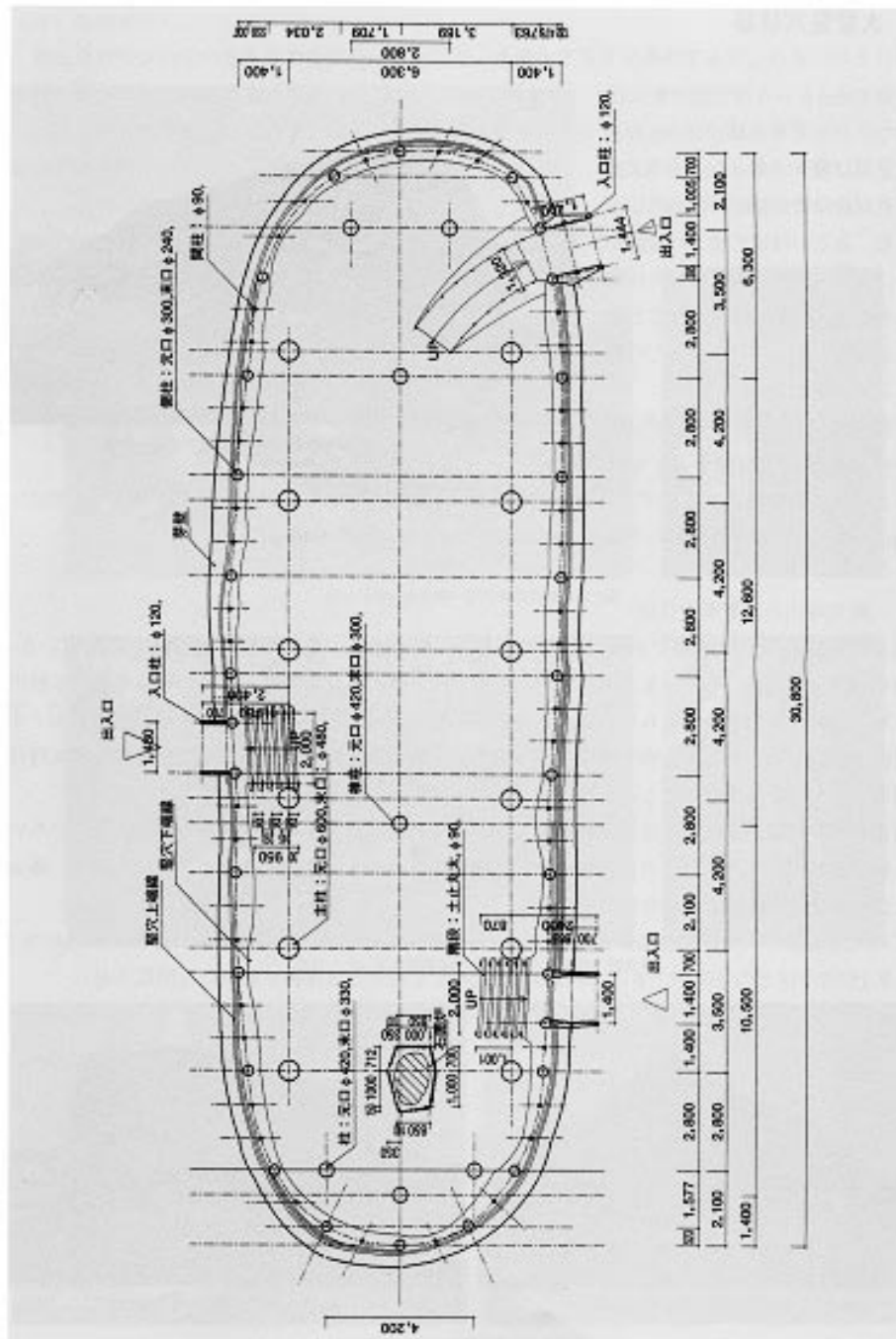
画像原品所蔵先：大阪府立弥生文化博物館（2009年12月26日撮影）

資料（Ⅱ）事前課題シート

次の図を参考に問3・4を書いてみよう。

この図は、ある遺跡の建物跡を図面化した平面図とよばれるものです。図中の丸は柱跡になります。

（青森県史編さん考古部会編集『青森県史 別編 三内丸山遺跡』2002年 p.446より転載）



問3 この建物はいつの時代のものでしょう？ _____ 時代

問4 問3の時代をふまえ、この建物はどんな形をしているのでしょうか。また、どれくらいの高さでしょうか？想像できることを言葉（簡条書き）で、場合によっては絵で書いてみよう。

（絵の場合は、難しく考えなくてよし！！適当でよし！！）

〈〈 歴博の先生方への質問状? 〉〉

*このシートには、各展示室、各展示で疑問に思ったことを書き込んでください。

*どんなことでも構いませんよ。

展示室番号	